

★中根式速記の書き方の基本のご説明

- ・「速記ってなーに」のところ、少しご説明していますが、難しいと思わないで、“第3のかな文字”と呼んでいる速記の基本文字について、読んでいただければありがたいです。
- ・まず、アイウエオは、「ア」だけ分かると、あとは、自動的にできます。

1) 【ア行】「ア」の2倍が「オ」 「ア」の裏返し
が「イ」
「イ」の2倍が「エ」 「オ」に点を打って「ウ」

右上		ア	イ	ウ	エ	オ


- ・そうすると、「愛」という字は、次のように簡単に書けます。

愛	⇒	あい、アイ	⇒		⇒	
---	---	-------	---	--	---	--

- ・2文字をつないだほうがそれだけ速く書けますが、慣れるまでは、かな文字を書くように、1字ずつ書いていってください。

- ・カキクケコは、次のようになります。

2) 【力行】「カ」の2倍が「コ」 「カ」を斜めに
して「キ」 「キ」の2倍が「ケ」
「カ」をまっすぐ立てると「ク」

	カ	カ	キ キ	ク ㄗ	ケ ㄗ	コ ㄗ
		— →	／ ↙	！ ↓	／ ↙	— →

- ・カタカナの一部として理解していただければと思います。
- ・この10文字を別紙に何回か書いてみてください。
- ・そうすると、これだけの文字を使って、次のような言葉が簡単に書けるようになると思います。

「アオイ」「イエ」「オオイ」「イウ」

「アキ」「キカイ」「クイキ」「ケイコ」など。

- ・ですから、「赤い」という言葉は、次のようになります。



- ・このように、つないだほうが、速記らしくなりますが、最初のうちは、かな文字を書くときのように、1字ずつばらばらにして書いてみてください。

- ・次に、サシスセソですが、これは、アイウエオの裏返しですから、セットで理解していただければと思います。

3) 【サ行】

《ア行とサ行は対称形》

「サ」の2倍が「ソ」 「サ」の裏返しが「シ」

「シ」の2倍が「セ」 「サ」に点を打って「ソ」

右下		サ	シ	ス	セ	ソ

- ・次に、タチツテトですが、これも、カタカナの一部として理解していただければと思います。

「ク」と「チ」は区別するため、「ク」は濃く（太く）書きますが、慣れてくると、はっきり書かなくても大丈夫です。

（2Bぐらいの鉛筆か、0.7ミリぐらいのボールペンで書いてください。）

4) 【タ行】「タ」の2倍が「ト」

「タ」を立てると「チ」 「チ」の2倍が「テ」

斜め上に長い線を書くと「ツ」

右下・ 右上・縦		タ	チ	ツ	テ	ト

- ・これだけで、半分ほど分かったことにはなりますが、この20音は、日本語で非常によく出てきますので、気分は3分の2ほど理解したと思っていただければと思います。（別紙に何度か書いてみてください。）

ノ	㇏	㇏	ノ	ノ					
一	ノ	ノ	ノ	一					
㇏	㇏	㇏	㇏	㇏					
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ					

・この20音を書いてみた感想はいかがでしょう。

なかなか難しい」「ちょっと難しい」「割と簡単」「とても簡単」など、いろいろだと思いますが、私たちは、文字を書く場合、微妙な区別を結構しています。例えば、

田	甲	由	申
---	---	---	---

わ	れ	ス	ヌ
---	---	---	---

など、いろいろ微妙な区別をして書いています。








特に、この「書」という漢字を書く場合、横線は何と8本ありますが、全部長さが違っています。それをうまく書かないと、バランスのとれた「書」という字になりませんが、いつのまにか、簡単に書けるようになっておられます。

書








こういうことから考えると、速記の基本文字は単純になっています。

- さて、後半の25文字ですが、次のようになっています。

5) 【ナ行】「ナ」の2倍が「ノ」
 「ナ」を太くして「ニ」
 「ニ」の2倍が「ネ」 「ノ」に点を打って「ヌ」

真横		ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
						

7) 【マ行】 《ナ行の対称形です》
 「マ」の2倍が「モ」 「マ」を太くして「ミ」
 「ミ」の2倍が「ム」 「モ」に点を打って「ム」

真横		マ	ミ	ム	メ	モ
						

- 順番を変えて、ナ行とマ行を合わせて説明しましたが、ア行とサ行と同じように、セットで理解していただければと思います。
- ただ、こちらは、「ナ」の裏返しは「マ」となるので、「ニ」は「ナ」の裏返しにしないで、そのまま濃く（太く）書くようになっています。
- これは、45文字の基本文字をわずか5方向の線で表現することになっているため、6方向にすると、あとで読みにくくなる場合があるためです。
- そのため、日本語として音が出てくる場合が少ない「ナ行」から「ワ」までの線は、濃く（太く）書く文字を6文字つくっていますが、ほとんどの場合は、濃く（太く）しなくても大丈夫です。（どうしてもものときは、区別する方法をつくってはあります。）

- ・次は、ハヒフヘホです。これは、「ア行」と「サ行」と同じですが、「フ」だけ例外になっています。（「フ」はカタカナの「フ」の一部です。）

6) 【ハ行】「ハ」の2倍が「ホ」
 「ハ」の裏返しが「ヒ」
 「ヒ」の2倍が「ヘ」 「ツ」の半分が「フ」

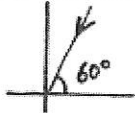



縦・右上	ハ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ

- ・それでは、この「ハ」から「モ」までの15文字を、別紙に何度か書いてみてください。

次は、残りの3行です。これも、セットで理解していただければと思います。

8) 【ヤ行】(3文字だけで、ラ行と対称形)

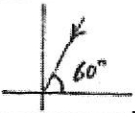





「ヤ」の2倍が「ヨ」 「ヤ」を太くして「ユ」

上から斜め 左下へ	ヤ	ヤ		ユ		ヨ
						

9) 【ラ行】 《ヤ行と対称形です》


「ラ」の2倍が「ロ」 「ラ」を太くして「リ」

「リ」の2倍が「レ」 「ロ」に点を打って「ル」

上から斜め 左下へ	ラ	ラ	リ	ル	レ	ロ
						

10) 【ワ行】「ユ」の2倍が「ワ」 「ン」は小円

(「ヲ」は「オ」で代用)

上から斜め 左下へ	ワ	ワ				ン
						○ (小円)

- 「ヤ」の裏返しは「ラ」になるので、「ナ行」と「マ行」と同じように、「イ列」は濃く(太く)しますが、「ヤ行」の「イ列」はないので、この

ように、「ユ」は「ヤ」を濃く（太く）したものとして、「ワ」は、「ヨ」を濃く（太く）したものにします。（「ン」は小円です。）

- では、この3行をまとめて、別紙に何度か書いてみてください。

㇏		㇏		㇏					
㇏	㇏	㇏	㇏	㇏					
㇏				。					

- 大急ぎのご説明になってしまいましたが、まずは、基本文字のつくり方だけを理解していただければと思います。

ひらかな、カタカナは、全くの丸暗記ですが、その速記の基本文字（第3のかな文字）（“はやかな”）は、

- ア列（アカサタナハマヤラワ）の、二重になっている部分だけを、まず覚える。
- イ列は、曲線は裏返しに濃く（太く）して、直線は立てると理解する。
- 「エ列」と「オ列」は、「イ列」と「オ列」の2倍なので、覚えなくてもいい。
- 「ウ列」は、「ウスヌムル」は、「オ列」の文字に加点。「クツフユ」は例外。（「フ」は「ツ」の半分）

- このように、頭の中を整理していただければと思います。
- 次のページに、この基本文字（第3のかな文字）（“はやかな”）の一覧表をまとめて載せています。

これを見ながら、何でも書いてみていただければと思います。

★ “はやかな” 一覧表★

ア行						
カ行						
サ行						
タ行						
ナ行						
ハ行						
マ行						
ヤ行						
ラ行						
ワ行						

・ アからワ（ン）までを順番に何回も書いていってください。

● 第1目標：1分間に1回書けるようになってください。

（この一覧表のように、ア行からワ行まで、5文字ずつ書いていったほうが、記憶されやすいと思われます。）

● 第2目標：1分間に2回書けるようになってください。

● 第3目標：1分間に3回書けるようになってください。

（長さ、角度、濃淡などの区別を気にする必要はありません。）

※この“はやかな”が頭に入れば、あとは、何でもゆっくりなら書けますので、いろいろな言葉を書いてみていただければと思います。